

## 2010 年度 大学教育研究重点配分経費研究成果報告書（保健体育講座 福ヶ迫善彦）

「授業省察力と実践力の習得をめざす教科教育の在り方に関する検討」

### 1. はじめに

大学は、地域を支える専門的人材の育成においても大きな役割を果たす。例えば、地域を担う教員の養成について、わが国にある 44 国立大学の教員養成学部の入学生のうち約 53% が各大学の所在都道府県の出身者であり、卒業生の約 62% が各大学の所在都道府県の公立学校の教師として就職している（文部科学省, 2009）。とくに愛知県の場合、教員養成学部を卒業した学生は、90%以上が愛知県内の公立学校に教師として就職する（文部科学省, 2009）。ということは、愛知教育大学における教員養成は、愛知県の教育水準と有意な関係にあると推考でき、養成段階で優れた教師を送出できるかが責務であり、教科教育学の質的充実は無回避できない課題である。

学校教育の充実には、その直接の担い手である教師の資質能力に負うところが極めて大きい。なかんずく、教師には、変化の激しい「知識基盤社会」の時代である 21 世紀社会を生き抜くための、確かな学力、豊かな心、健やかな体、いわゆる「生きる力」の基礎を培う教育を行うことが期待される。これに関連して、2006 年 7 月の中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」の提言を受けて、文部科学省は、2008 年 11 月に教育職員免許法施行規則を改正し、教師として必要な知識技能を修得したことを最終的に確認するための科目である「教職実践演習」の導入、教職課程認定大学への是正勧告や認定取消しの仕組みの整備、教職指導や教育実習の円滑な実施の努力義務化を明示した。このことが直ちに教師の実践的能力（performance competency）の協調ではなく、専門的・学問的能力（knowledge competency）との統合カリキュラムが強く求められるべきであろう（小金井, 1980）。

福ヶ迫（2007）や福ヶ迫・坂田（2008）は、実践的能力（performance competency）と専門的・学問的能力（knowledge competency）の統合的プログラムを繰り返し実践し、体育科教育学の方法論について、その可能性を言及している。そこからはいくつかの卓行性と、他方で陥欠性が可視化された。それは、①多くの実践場面を設定し、一人ひとりに多くの経験を保障する場合。すべての学生に擬似的教師を経験させられるが、わずかな時間しか経験できない。②グループをつくり、グループの代表が授業を行う場合。指導内容、指導案、教材づくりなどグループで考えることができるが、グループ内で授業への取り組み度が異なる。③一人の学生が教師役を担い、その他の学生は子ども役・観察者役を行う場合。一人の学生が変容する過程をみることができ、反省的实践の基礎を知ることができるが、残りの学生は教師役を経験できない。また、一人の学生への負担が大きい。④現職教員の授業と学生の授業を比較検討する場合。体育授業のイメージを変える可能性があり、高度な専門職的教師の指導技術を経験することができるが、多くの時間を模擬授業に費やし、準備等に多くの時間や

経費も費やす。ようするに、学生による模擬授業の効果は、体育授業の分析力を高め、反省的に授業を実践する資質の育成にあるといえる。ただし、それは、無計画に行うのではなく、あらかじめ模擬授業において分析項目を示したり、講義形式の授業で理論的枠組みを示したり、模擬授業を行う方法自体を焦点化したりするなどの仕掛けが必要である。その裏面には、教師役と子ども役が大学生であることの弊害や、よい体育授業を体験したいという願望を改善・充足することの困難さが生起する。

そこで本研究は、実践的能力 (performance competency) と専門的・学問的能力 (knowledge competency) を統合したプログラムづくりのために、映像コンテンツを用いたバーチャル型講義形式のプログラムを実践し、その効果について検討した。

## 2. 方法

### 2.1. 期日と対象

2010年10月から2011年2月までに行われたA大学「体育科教育学」の授業（以下、「実践Ⅰ」とする）を対象に実践・分析した。実践Ⅰを受講したのは、理科を専攻する学生55名（2年生）で、教育実習を経験していない。

### 2.2. 実践Ⅱの分析

#### 2.2.1. 映像コンテンツ

模擬授業は、より現実の体育授業に近接する状況をつくり出すが、物的・人的・時間的瑕疵に鑑みると、映像コンテンツを用いたバーチャル型の授業形態の方法も選択できる。そこで、高橋ら（2007）によって作成された「すぐれた体育授業を観る」と、筆者らが作成した状況関連的に分析可能な映像を用いた。

#### 2.2.2. バーチャル授業

体育授業の映像を状況関連的に映写し、「もし〇〇〇の状況であれば、あなたはどのように指導しますか」などの設問を設定し、その状況で行動するだろうことを文面化させた。

#### 2.2.3. 状況認識の変化

バーチャル授業で文面化した行動をもとに、筆者らから研究に裏付けられた情報を提供し、再度同じ状況の映像を見たときにどのような行動をとるか文面化させ、その変容を検討した。

## 3. 結果と考察

### 3.1. 実践Ⅰのプログラム

#### 3.1.1. プログラム作成のバックグラウンド

よい体育授業を実現するためには、経年的に獲得する指導技術や方略のほかに、新任教師でも実行できることがある。例えば、学習時間を確保すること、学習に従事させること、オフタスク行動をとらせないこと、学習規律を確立すること、フィードバックを与えること、わかりやすく情報を提供（インストラクション）すること、学習内容を習得させる教材をつく

ることなどがそれである。それは、高橋（2000）のいうよい体育授業の基礎的条件であり、このことに関わっては、すぐにでも実践できるし、教員養成段階で獲得させなければならない力量である。

プログラムを作成するにあたって、高橋が提案するよい体育授業の基礎的条件に依拠しつつ、アメリカの教師教育プログラムも参照した。アメリカでは、連邦教育省報告書「A Nation At Risk」（以下、「危機に立つ国家」と略す）の発表や「教育サミット」の開催、「全国共通教育目標」の合意成立、「America 2000:An Education Strategy」（2000年のアメリカ教育戦略）の発表、「Goals 2000:Educate America Act of 1994」（2000年の目標：アメリカ教育法）の制定にみられるように、それまでの教育の責任主体である州や学区主導ではなく、連邦政府の強力なリーダーシップのもとに、様々な教育改革がなされている。アメリカにおける教育改革は、「危機に立つ国家」以降、平等と卓越性の両方を追及し、教育スタンダードをはじめとする共通化・基準化（トップダウン）がすすめられている一方で、学区や学校における自主的な改善への取り組みの促進（ボトムアップ）が行われている。また、アカデミックな教科が重点化されるなか、体育は危機的状況にあり、アカウントビリティに応えることのできるカリキュラムや教師が求められている。the American Alliance for Health, Physical Education, Recreation and Dance（以下、AAHPERD と略す）の組織内にある National Association for Sport & Physical Education（以下、NASPE と略す）より「Moving into The Future National Standards for Physical Education」（以下、「体育のナショナル・スタンダード」と略す）が出版された（NASPE, 1995）。つまり、NASPEを中心として作成された「体育のナショナル・スタンダード」や American Master Teacher Program（以下、「AMTP」と略す）のような体育独自の教師教育プログラムは、それに応えようとした1つであり、教員養成段階における体育科教育の方法論を探る上で、大きな示唆を与える。

### 3.1.2. プログラムの作成

AMTP の目的、AMTP の構成要素、各コースの概要について、「AMTP Pedagogy Course Study Guide」（Graham, 1993）、「Teaching Children Dance Becoming a Master Teacher」（Purcell, 1994）、「Teaching Children Games Becoming a Master Teacher」（Belka, 1994）、「Teaching Children Movement Concepts Becoming a Master Teacher」（Buschner, 1994）、「Teaching Children Fitness Becoming a Master Teacher」（Ratliffe, 1994）を参考に、紹介する。

AMTP の目的は、将来や今日の体育教師にとって、上質な情報源やプログラムの提供によって、体育での指導方法や学習内容を改善することである。AMTP は、サポート、はげまし、そして教養としての知識のみならず専門的成長を体育教師に供給する（Graham, 1993）。

また、AMTP は、以下の3点について支援するだろう（Graham, 1993）。

- ・効果的で熱心な教師になるための方略、テクニック、そして技術を学習する。
- ・生徒に上質で発達上適切な体育を提供する。

・同僚とのネットワークを構築する。

AMTP は、Pedagogy コース、Content コース、マスターティーチャー実習講座（Master Teacher Practicum）の3つのコースからなる。Pedagogy コースおよび Content コースは、15時間のワークショップ（2日間）で行われ、実習生と現職教員の参加のために全国で計画されている。マスターティーチャー実習講座は、AMTP 参加者が Pedagogy コース、Content コースの両方を成功裡に終え、修了書を得た後、両コースの内容を実践的に行う。3 つすべてのコースが成功裡に終えられた後、参加者は体育の AMTP マスターティーチャーの称号を与えられる（Graham, 1993 ; Purcell, 1994 ; Belka, 1994 ; Buschner, 1994 ; Ratliffe, 1994）。

実践 I では、AMTP の Pedagogy コース、Content コースの内容を中心に網羅する形でプログラムを作成し、プログラムの後半では、それらに連関するバーチャル授業を行った。表 1 は、実践 I のプログラムとその内容である。

表 1 実践 I のプログラム

1	体育授業で求められる教師の能力	8	体育の学習指導論Ⅳ
	反省的実践家、スタンダード		体育の学習・評価論
2	体育科教育学を学習する意味	9	体育の指導法略・技術論
	体育概念、体育の制度		モニタリングと相互採用、マネジメント
3	体育のカリキュラム論Ⅰ	10	バーチャル授業Ⅰ
	運動欲求とアナログン		マネジメント
4	体育のカリキュラム論Ⅱ	11	バーチャル授業Ⅱ
	体育の目標・内容、カリキュラム		インストラクション
5	体育の学習指導論Ⅰ	12	バーチャル授業Ⅲ
	よい体育の条件		オフタスク
6	体育の学習指導論Ⅱ	13	バーチャル授業Ⅳ
	体育の教材・教具論		つまずきの指導
7	体育の学習指導論Ⅲ	14	バーチャル授業Ⅴ
	体育の学習指導論、学習形態論		課題を伝える、伝わらないとき
		15	バーチャル授業Ⅵ
			教材を考える

### 3. 2. バーチャル授業における状況認識

#### 3. 2. 1. マネジメント行動で問題が発生した場合

バーチャル授業の映像には、連続写真が挿入され、それを各学生は手元で見ることができ、ある場面を抜き出して、「もしこの選択をしたら、このような事態になった」「あなたは どうする?」といった流れである。例えば、マネジメント場面をあげよう。体育授業では、机や椅子は存在せず、定位置もない。また、授業は流動的で臨機応変な対応ができる資質が問われる。「子どもに集合の合図をかけたとしても集りません。どうする?」などである。多くの学生は、「しかる」「注意する」などをまず記入する。そこで、授業者からいくつかの指導方略や指導技術を提言すると、表 2 のような記述に変容した。そこからは、具体的でマネジメントを構造化しようとする意図が読み取れた。

表2 バーチャル授業におけるマネジメントに関わる記載

□子どもたちが集合になっても集まりません。どのようにして子どもを集めますか？

- ・ カウントダウンする
- ・ 子どもに集合の役割を与える
- ・ 賞を与える
- ・ 順位をつける
- ・ 音楽を用いる
- ・ 時間を決める
- ・ 早く集まった子どもやチームにシールを渡す
- ・ 班でタイムを競わせる
- ・ ある程度集まったら話し出す→気になるため早く集まるだろう
- ・ みんなでカウントダウンしながら集まる
- ・ 教師が話をしない→空気の変化を読ませる
- ・ 太鼓やホイッスルで、決められた合図を送る
- ・ よい行動とそうでない行動を示す

### 3.2.2. 教材づくりを考える

次により体育授業に不可欠な教材づくりである。ここでは、ゴール型ボールゲームを例にする。多くの学生は、これまでの経験則から記述するものばかりであった（表3）。それが、授業後半の映像試写後は、表4および図1のような記入に変容した。そこからは、学習内容を習得させることや、学習内容を明確に位置づけること、さらにはゲーム修正論に則るような記載がみられた。

#### 【写真バーチャル映像の1場面】



表3 バーチャル授業における教材に関わる記載

#### ○サッカーの場合

- ・ 5人チームで4対4（各班1人ずつ審判）
- ・ キーパーなし
- ・ ゴールを小さくする（ハードル、コーン）
- ・ ラインなし

#### ○バスケットの場合

- ・ 5対5
- ・ ゴールを子どもがやる

表4 指導後における教材に関わる記載（一例）

○サッカー型ゲーム
・ グリッド型のミニゲーム
・ 1チーム4人
・ コートを4分割にして、パスが通れば1点
・ ゴールが入れば2点
・ ねらい：ボールを集まらず、空いたスペースを見つける、コート全体を見渡せる

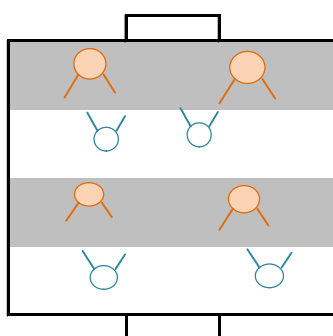


図1 指導後における教材に関わる具体的図示

#### 4. 結論

教員養成段階における基礎的力量形成に向けて、模擬授業形式に近い、バーチャル授業を行い、その効果について検討した。

その結果、指導前よりも指導後において、より具体的で、自分自身を授業映像に投射しながら文面化できるようになった。とかく、よい体育授業の基礎的条件に関わってその傾向が強くなり、よい体育授業の基礎的条件については、模擬授業を通じて得られる力量と相応することが推測できた。その一方で、それを実際の行動として体現化することができるかは検討することができず、今後の課題となるだろう。

#### 引用参考文献

- Belka, D. E. (1994) Teaching Children Games Becoming a Master Teacher. Human Kinetics Publishers: Campaign.
- Buschner, C. A. (1994) Teaching Children Movement Concepts Becoming a Master Teacher. Human Kinetics Publishers: Campaign.
- 福ヶ迫善彦 (2007) 愛知教育大学での実践例. 平成 16～18 年度科学研究費補助金報告書. 研究代表者高橋健夫. 課題番号 16300193, pp. 76-89.
- 福ヶ迫善彦・坂田利弘 (2008) 授業省察力を育成する模擬授業の効果に関する方法論的検討. 愛知教育大学保健体育講座研究紀要. 32:33-42.
- Graham, G. (1993) AMTP Pedagogy Course Study Guide. Human Kinetics Publishers:

Campaign.

Jewett, A. E. and Bain, L. L. (1985) *The curriculum process in physical education*. Dubuque, Iowa : W. C. Brown.

小金井正巳・井上光洋・児島邦宏・稲森京子・葛西英昭・原健爾・野田一郎 (1980) マイクロティーチングによる教育実習プログラムの開発と評価. *日本教育工学雑誌* 4 (3) :113-126.

文部科学省 (2009) *文部科学白書平成 20 年度*. 佐伯印刷株式会社:東京, pp. 35-36.

NASPE (1995) *Moving Into the Future National Physical Education Standards: A Guide to Content and Assessment*. Mosby-Year Book: St. Luis.

Purcell, T. M. (1994) *Teaching Children Dance Becoming a Master Teacher*. Human Kinetics Publishers: Campaign.

Ratliffe, T. (1994) *Teaching Children Fitness Becoming a Master Teacher*. Human Kinetics Publishers: Campaign.

高橋健夫・小松崎敏・吉野聡・日野克博・吉永武史・細越淳二・米村耕平・福ヶ迫善彦 (2007) 「すぐれた体育授業を観る」. 筑波大学体育科教育学研究室.

The National Commission on Excellence in Education (1983) *A Nation At Risk : The Imperative for Educational Reform*, United States Department of Education.

United States Department of Education (1993) *America 2000:An Education Strategy*